

事業者排出量削減計画書 (新規・変更)

住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)	東京都板橋区成増5丁目9番7号				
氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	株式会社 湖池屋 取締役社長 田子 忠				
事業者の主たる業種	菓子製造業				
該当する事業者要件	レ 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者(大規模エネルギー使用事業者(原油に換算して1,500キロリットル以上)) 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者(大規模運送事業者(トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上)) 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者(その他の温室効果ガスの大規模排出事業者(二酸化炭素に換算して3,000トン以上))				
計画期間	20年 4月 ~ 23年 3月				
基本方針	工場内のエネルギー使用量を把握し、ハード、ソフト両面から生産効率向上を図る。				
推進体制	工場全体のコストダウン計画の中に省エネ、CO2削減項目を織り込み進めていく。				
	環境マネジメントシステム名称				
	適用範囲				
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	取得年月日				
	年度	設備、対象、工程等	計画内容		
	20年度	エアコン	旧型のエアコンを高効率エアコンに更新し、電力の削減を図る。		
	21年度	ボイラー	エコマイザー付きボイラーに更新し、灯油の使用量を削減する。		
22年度	燃料	灯油からLNGへの転換を図り、CO2削減について研究する。			
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度(実績) (19)年度 (二酸化炭素換算)	目標年度(計画) (22)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (計画)	
	A 事業所等排出区分	9,046 t	8,601 t	-4.9 %	
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	
	C その他排出区分	t	t	%	
	排出合計	*1 9,046 t	*2 8,601 t	-4.9 %	
	目標設定の考え方	各機器の熱効率のアップやインバーター化等でCO2削減を図る一方、生産効率を上げることで無駄なエネルギーの消費を削減を削減する。			
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度(実績)	目標年度(計画)	増減率(計画)
	京都工場	二酸化炭素換算 生産数量	0.862 t/t	0.820 t/t	-4.9 %
		二酸化炭素換算			%
		二酸化炭素換算			%
原単位の指標及び計画数値設定の考え方	原単位の指標を生産量とし、19年度の生産量が当工場の標準的な生産であり、今後の生産もほぼ同と考える。				
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度(計画)			
		取組量等	(二酸化炭素換算)		
	森林の保全及び整備	(整備面積) ha	(吸収量)	t	
	府内産の木材の利用	(利用量) m <sup>3</sup>	(削減量)	t	
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(売電量) kwh	(削減量)	t	
		(熱供給量) GJ	(削減量)	t	
	グリーン電力の購入	(購入量) kwh	(削減量)	t	
削減量等合計		*3	t		
差引排出量 (排出合計-削減等合計)	基準年度(実績)	目標年度(計画)	増減率(計画)		
	*1 9,046 t	(*)2-(*)3 8601 t	-4.9 %		
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	当工場から出る包材(プラスチックフィルム)廃棄物は焼却せず、固形燃料化メーカーへ出し、再資源化を図る。廃段ボール、紙管等は再生紙メーカーへ出し再資源化を図る。				
特記事項	グリーン購入を意識して、工場で使用する文具類等を選択する。				

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。  
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。  
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標(生産数量、延べ床面積、走行距離等)を記入してください。  
 5 「特記事項」には、平成2年度(1990年度)を基準とした排出量の対比や省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。